

# 色彩への想い、 変わっていくことの大切さを胸に

対談

## 大久保澄子×勅使河原純

イギリスへの留学から作家活動をスタート。現在は、春陽会の理事として会の版画部をリードしつつ、イギリスと日本を股にかけて活躍する大久保澄子。「エディションものの版画に未来はない」と囁かれる中、孤軍奮闘する女性作家の現在に勅使河原純が迫る。



東京郊外のアトリエにて。大久保澄子(左)と勅使河原純

### ロンドンには第二の活動拠点

**勅使河原** 近々、イギリスで個展があるとお聞きしました。大久保さんは春陽会の作家でもあるわけですが、海外でも積極的に活動をされていらっしゃいますね。

**大久保** ゆるやかですが、20代から続けてきました。春陽展(国立新美術館)が終わったばかりですが、金沢と京都の画廊で個展があり、この7月からロンドンでの個展が約2か月間続きます。このギャラリーでの個展は2008年と今回で2度目になります。

**勅使河原** 女子美術大学を卒業された後、ロンドンへ留学されています。大久保 大学院修了後に技術指導官

として研究室に残り、学生に教えながら約6年いましたので、イギリスは第二の活動拠点ですね。

**勅使河原** 向こうでは版画を中心に出品されるのですか？

**大久保** いいえ、タブローあり、インスタレーションや立体あり、という感じです。最近では版画を発表するというよりも、(春陽会をどう構成するか)という意識が強いですね。ですからプロンズも制作しています。  
**勅使河原** 日本のギャラリーとは展示に対する考え方が違うのでしょうか。

**大久保** 企画展ですからギャラリーが展示を考えてくれるのが当然で、全部やってくれます。2か月から3か月の展覧会期間を設けてくれるのが海外のやり方で、壁面一杯に作品を飾ったり、ランダムに掲げたり、ポツンと掛けたらいい。全体をリズム・カルに見せていくことが多いですね。このギャラリーのオーナーは、元々アーティストで、ロイヤル・カレッジ・オブ・アートでM.A.(修士号)を取得しているほどの人なので、優秀でセンスもいいます。彼女に対して「こうしてほしい」とリクエストしたことはあまりないですね。

自分流の版表現について

**勅使河原** 大久保さんは「版画家」というよりも、「版で表現をする美